神奈川支部報

神奈川支部報　第　25 号
発行日：2023 年 5 月 1 日
発行者：込田伸夫
発行所：公益社団法人日本山岳会神奈川支部
横浜市青葉区若草台 2-58　込田方

湘南平にて（撮影：永井）

かながわ山岳誌プロジェクト最終山行終了

2023 年 5 月 3 日、五月晴れの下 25 名が湘南平に集合、2017 年 4 月 15 日から継続して取り組んできた「かながわ山岳誌」プロジェクトを完結した。この後、報告書のとりまとめに入るが、詳細は追って報告する。

令和 5 年支部総会

日 時：　２０２３年５月２０日（土）14:00～16:30（13:30 受付開始）

場 所：　かながわ県民センター 301 会議室(3 階)⇒直接 3 階に上がって下さい。

所在地：横浜市神奈川区鶴屋町 2-24-2

JR・私鉄「横浜駅」西口・きた西口を出て、徒歩 5 分

丹沢周辺の渡来人の足跡（追補）

和田誠一

岩田達治著「秦野の伝説」（下巻）に記載されている「からこさんと金印」によると、昭和49年9月24日の毎日新聞の夕刊記事に「富士山麓の畑から中国の大変古そうな印鑑が発見された」とあり、さらに「富士山麓に住み着いたとされる徐福と言う人物の子孫が、富士山大噴火で丹沢を越えて相模の国に移り住んだという経緯」を紹介している。「刻印はどうも“秦”と読めることから、地元の郷土史家が飛びあがるほど興奮している」との記事を紹介し、もし発見された印鑑と徐福との結びつきが立証されれば、宮下古文書の信憑性や徐福と言う人物に対する疑問も一気に解決できるかもしれないからだった。

「宮下古文書」とは、富士山の北麓・富士吉田市にある小室浅間神社の宮司を務める宮下家に伝わる古記録・古文書の総称で「富士古文書」とも言う。その概要は神武天皇が現れるはるか以前の超古代、富士山麓に勃興したとされる富士高天原王国に関する伝承を含み、その中核部分は中国・秦から渡来した徐福と、その子孫が編集したと伝えられているもの。

「宮下古文書」を現代語に訳した「現代語訳神皇紀」（神奈川徐福研究会編）によると、「秦始皇帝三年（注：推定ＢＣ215年）の命を受け不老不死の霊薬を求めて、蓬莱の国．日本列島に渡った徐福等一行は、幾度となく、これぞ不二蓬莱山と思って上陸しても、容貌が異なり再び航海を続けることを繰り返し、やっとのことで住留家（注：駿河？）の宇記島原に上陸。（富士山を時計回りに）松岡・水木保・川口を経て不二蓬莱山に辿り着いた。時に国を出てから2年を過ぎていた。富士山麓に住み着き、時は流れて桓武天皇延暦十九年（ＡＣ800年）に起こった富士山大噴火で高天原は四十丈（注：約130m）下に埋没し、生き残った徐福の子孫達は住む場所を追われ、丹沢を越えて相模の国まで移動した。」とある。

さて「宮下古文書」や富士山麓で発見された印鑑の真偽はさておき、「ＪＡＣ神奈川支部報23号」「丹沢周辺の渡来人の足跡」(4) に書いた大月・幡野の「八幡神社」に伝わる“幡が飛来した”と言う伝説は「甲斐国史」や「新編相模風土記稿」を調べると、宮下古文書にある徐福の子孫が富士山大噴火により相模に移動した跡を辿っているかの如く各地に伝承されていることは興味深い。

（幡野の八幡神社　大月市）

☆都留市大幡には「甲斐国史」巻之十八 村里部第十六上　大幡村の項に「・・・土人相伝フ古ヘ何地ヨリカ大幡一旒マヒ来リ此ノ地ニ止ル因リテ之レヲ神ニ祭リ村名モ是レヨリ起ル今丸ノコシト云フ地ニ祠アリ御機明神ト称シタナバタ姫ヲ祭ルト云。」とあり、現在ある機神社の由来に触れている。

☆次いで大月市猿橋・幡野集落の山の上にある幡野八幡神社には「甲斐国志」巻之七十二 神社部第十七ノ下　八幡宮の項に「八幡宮・・大幡一旒空中ヨリ飛ビ来リ　此ノ地ニ止マル　依リテ神殿ヲ建立シ其ノ幡ヲ納メテ神躰トシ八幡宮トイハヒ奉ル　因ツテ此ノ地ヲ幡野ト名ヅク凡ツ大幡・幡倉・加幡等ノ村里皆此ノ幡ノ暫シ止リシ地ナリ　其ノ幡長サ三十三尋　鈴七ツ　鏡七ツ付キト云フ　其ノ幡飛行ノ時鈴一ツ落チテ朝日村久保ト云フ地ニ止マル　土人神祠ヲ造営シテ之レヲ納ム　朝日小沢ヨリ朝日村ニ越ユル峠ヲ鈴ガ音ト云フ　是レ亦其ノ縁ナリ後此ノ祠火災ニ遭ヘルニ其ノ幡自ラ飛ビ出テ相模国日向ノ薬師ニ止マルト云フ　今日向ノ薬師ヲ尋ヌルニ然ル幡存セリ伝説亦此ノ地ト同ジ虫バミ敗レテ開キ展ブルコト不能ハ其ノマヽ箱ニ蔵メテ置タノミ　安永七年右ノ幡ニ擬シテ新タニ錦幡ヲ裁ス　三丈三尺幅二尺　毎三月十五日祭礼ニ此ノ幡ヲ玉垣ノ内ニ立ノツ」とある。

因みに錦織の「御幡様」は12年に一度の御開帳で拝観することができる。前回の御開帳は

平成 30 年（戌年）でした。

☆幡は鈴ガ音峠を越えて、次が道志村大渡に飛来する。伊藤堅吉著「道志七里」の文化・傳説の項に「北都留は大原村に八幡社があった。ある時、野火を生じて、この社まで類焼に瀕せんとしたのである。氏子は周章狼狽せめて御神躰だけでも移し参らせんと、扉を開いたところ、社殿からは大幡が火焔に煽られて舞上がり、續いて神鏡、御鈴等が次々と天高く吹上り、あれよあれよと見やる内に、何処ともなく飛び去ってしまった。

さて飛行を続けていた神霊を宿す品々の行方を訪ねると、鈴が盛里村に落ちた。ここには鈴音八幡社を祀った。幡は村内に飛来り馬場に堕ちた。馬場を今でも長幡の俗称で呼んでいるのはこの為めである。ここから大幡は再び飛翔をして字大渡へ舞い下り社の森に引懸った。而しこの大幡は再び風に煽り飛ばされ、相州大山の麓、柏尾薬師へ流れ落ちたので、ここでは厄病除の神躰として祀り上げてしまった。大渡の地は大幡が降りた地として“大幡”と名付けられたのであったが、何時しか轉訛されて今では大渡と変わってしまった。」とある。

☆道志村から丹沢山麓を越え，次に記述が見られるのは中津川に面した八菅神社。「新編相模国風土記稿」巻之五十七　村里部愛甲郡巻之四に「山中ニ堂庭幡、幡之坂、以上往昔幡降臨ノ地ト云」（山中には堂庭幡、幡之坂の二か所があり、遠い昔に幡が降臨した地と言われている）

（日向薬師　伊勢原市）

☆最後は日向薬師、大月の幡野八幡神社で「此ノ祠火災ニ遭ヘルニ其ノ幡自ラ飛ビ出テ相模国日向ノ薬師ニ止マルト云フ」と伝わる日向薬師の項では「新編相模国風土記稿」巻之五十一村里部大住郡巻之十に「縁起日、神亀二年、幡天ヨリシテ降ル」（縁起によれば神亀２年（725）、幡が天から降ってきた）と伝えられている。

このように「幡が飛来した」と言う伝承が丹沢山麓のあちこちに伝わっていることは、単に偶然とは考え難いところである。

山岳古道プロジェクト報告（第７回）

葉上徹郎

2023 年１月１４日（土）大山参詣道表参道

相州大山参詣道の踏査は、表参道、裏参道の 2 回に分けて実施することとした。今回は表参道。大山ケーブル駅上の追分社から急勾配の石段が続く男坂を選択。

かつてこの男坂には、20 か所余の祠があったというが、そのうちの 1 カ所が確認できる。現在も秋の阿夫利神社例大祭では、この険しい男坂を神輿が往復するという。阿夫利神社下社からのミシェラン２つ星の景観は、天候が思わしくなく、望むことはできなかったが拝殿下に収められている木太刀等を見学。登拝門からは

男坂付近で鹿に会う

、厳しい登りとなる。16 丁目蓑毛追分、20 丁目富士見台を過ぎ山頂へ。当日は、雪のちらつく曇天であったが、山頂で昼食をとっている間に晴天に変わる。下りは、不動尻分岐から雷ノ峰尾根を通って見晴台へ下った。二重の滝へ向かう途中に社跡と神木と思われる大きな杉の古木があり、その大きさに驚嘆した。下社からは、女坂を通り、大山寺を経由し、ケーブル

バス停まで下った。

男坂追分社石段上部の祠跡を見る

《コース概略》伊勢原駅北口（737）＝（800）大山ケーブル BS（809）～男坂経由～（940）阿夫利神社下社（954）～（1055）16 丁目（1109）～25 丁目（1150）～（1210）大山山頂（1253）～不動尻分岐（1314）～雷ノ峰尾根経由～（1414）見晴台（1420）～二重の滝（1452）～下社下（1506）～女坂経由～大山寺（1530）～（1600）大山ケーブル BS（1615）＝伊勢原駅北口
《参加者》砂田定夫、永井泰樹、渡邊正敏、葉上徹郎（4 名）

2023 年 3 月 4 日（土）八菅修験道第 28 番行所～第 30 番行所（最終）

昨年 3 月、28 番行所で天候により、残り 2 行所を残し、回峰結願を断念したが、今回はそのリベンジ山行である。いよいよこの踏査山行で八菅修験の行者道踏査は終了となる。旧弁天の森キャンプ場入口付近、大沢林道が右へUターンする場所にある鉄製ゲートの先から弁天御髪尾根に取付く。ザレた斜面を注意して登り、尾根に上がったところが見晴広場。この後、下弁天、中弁天、上弁天と続き、第 26 番行所（千手嶽）といわれる弁天見晴に至る。この尾根は、固定ロープが多く険しい場所も多いが、関東平野から相模湾、大山方面の景観がすばらしく、行者の道に相応しい様相である。弁天見晴から、見晴広場 B,同 A、第 27 番行所（空鉢嶽）といわれるすり鉢広場を経て、大沢分岐、鍵掛と険しい尾根を進むと唐沢峠・大山間の縦走路に飛び出す。

弁天御髪尾根の険しい山稜を行く

縦走路にある壊れた石祠

この付近には「矢草の頭」と呼ばれている 893m ピークがあり、第 28 番行所（明星嶽）といわれている。ここから大山方面に 6 ～ 7 分歩いたなだらかな広い尾根に、壊れた石祠を見つけた。側面に嘉永二年（1849 年）七沢村中と刻まれている。七沢方面からの大山詣でのルートであったと考えられるが、ロケーションからこのあたりが第 28 番行所ではなかったかと想像する。ここからは、歩くにつれて大きくなる大山を望みながら疲れた体に鞭打って大山山頂まで 250m 程の高度を稼ぐ。29 番行所大山寺本宮である山頂からの下りは、16 丁目から裏参道に入り、西の峠からかごや道を通って、かつて大山寺不動堂があった現在の阿夫利神社下社に到達。これで八菅修験の行者道 30 行所、約 53ｋｍ回峰の結願となった。今回のように資料を参考に行所位置やルートを確認あるいは、推理しながら行者の気持ちになって歩

く山行形式は、とても新鮮で興味深いものであった。

《コース概略》〉厚木バスセンター（700）＝（737）広沢寺温泉入口（741）～（845）弁天御髪尾根取付（855）～（1032）弁天見晴（1043）～893m峰（1253）～（1431）大山山頂（1445）～16丁目（1523）～西の峠（1550）～（1614）下社駅（1620）＝（1625）追分駅～（1644）大山ケーブルＢＳ＝伊勢原駅北口《参加者》砂田定夫、永井泰樹、葉上徹郎　（3名）

自然観察会（谷戸山公園探鳥会）

令和5年2月4日

小田急線座間駅に集合し、定刻より早めの出発となりました。駅から約10分程で、公園西入口の長屋門に着きます。県立座間谷戸山公園は、2002年に全面開園となり、広さ30.6ヘクタール、四季折々の自然生態観察を楽しめる県立の都市公園です。

長屋門から、田んぼ、湿性生態園を経て、水鳥の池の前面では、マガモ、カルガモ、コガモを観察できました。シジュウガラやハシブトガラスが飛び交う中、シラカシ観察林へと歩を進めます。森の遷移と極相林について説明し、内部に入っていきます。森の中の開けたギャップでは、カラ類やヒヨドリなどが飛び交っています。南入口広場、小鳥のさんぽ道、昆虫の森と進み、小高い丘の上のログハウスに着き、ここで、昼食としました。ログハウス内には、テーブル席が2卓あり、我々だけでお菓子の交換会となり昼食を楽しめました。

午後の部は、野鳥観察小屋を2か所回りましたが、小鳥の声も聞こえず、姿を確認できませんでした。再び、水鳥の池に戻り、午前中に観察した水鳥に加え、カイツブリが潜行しては浮上する姿が確認できました。池の少し先では、十数羽のメジロが、木の周りに飛びかっていました。明王・谷戸の道からわきみずの谷へと歩を進めると、湧き水の井戸からは、水が湧き出ていますが、その量が少なく、谷の湿原地はほとんど乾いた状態になっています。この湿原地ではいろいろの鳥の声がし、コゲラ、ハクセキレイ、ヤマガラなどの混群が見られました。

谷から丘へ上がると、給水地があり、戦前は旧陸軍士官学校へ給水されていましたが、今は、米軍キャンプ座間の管理下にあります。丘陵部を軽くアップダウンして、伝説の丘に着きます。ここは本堂山ともいわれ、観音様と大蛇にまつわる伝説があります。この先は、丹沢の山並みが見えるビューポイントです。やや霞がかかっていましたが、丹沢山から大山、箱根の山々が確認できました。

長屋門に戻る途中でジョウビタキが現れ、長屋門にて本日の鳥合わせを行い、星谷寺へ向かいました。この寺は、先ほどの伝説にゆかりの寺で、坂東三十三札所の八番札所にもなっています。本尊の観音様にお詣りをし、本日の探鳥会を終了としました。

確認した野鳥：カワラヒワ、ヒヨドリ、マガモ、カルガモ、コガモ、シジュウカラ、ハシブトガラス、メジロ、ウグイス、ホウジロ、カイツブリ、コゲラ、ハクセキレイ、ヤマガラ、ジョウビタキの15種

＜行程＞座間駅10：15－谷戸山公園入口10：30－園内散策その1（里山体験館、シラカシ観察林など）－11：45ログハウス（昼食）12：20－園内散策その2（野鳥観察小屋、水鳥の池、わきみずの谷など）14：05－（星谷寺を経由して）－座間駅14：30
＜参加者＞込田、堀江、細川，国清、稲垣、大宇、丸山、石村、関口、渡邊の10名（渡邊正敏記）

山行報告

かながわ山岳誌　L コース

八国見山･頭高山

令和 5 年 1 月 21 日

渋沢駅南口を出発し、県道 708 号線を南下する。渋沢中学校入口を過ぎた後、左折し、渋沢丘陵へと登っていく。東西に走る渋沢丘陵の道に出たら、左折し、その後右折し進むと八国見山への道標が立っている。ここで反時計周りに回ることとし、右の山道に入る。山道では、イノシシのヌタ場を 2 度見かけた。やがて、右手が少し高くなっている箇所があり、そこが渋沢丘陵最高地点と言われる八国見山の頂上だった。あいにく富士山は、ほんの少し頭が見えただけで全容を眺めることはできなかった。なお、八つの国は、山頂標識によると、駿河、相模、伊豆、甲斐、武蔵、上総、下総、安房を指すようだ。

八国見山頂上

小休止後、八国見山の頂上から下っていき、途中で、真鶴半島方面の眺めを味わう。その後、舗装路に出て再び頭高山分岐点まで戻る。

渋沢丘陵を西へと進んでいく。雁金神社を過ぎ、頭高山入口に到着。ここでは、右手に大山、丹沢方面の山並みが一望できる。なお、左手の反対側斜面は、八重桜の林となっていて、4 月中旬になれば、桜満開の光景が見られるところだ。その後、頭高山を目指す。山頂へ登り終えると、鳥居と東屋が見える。ここが山頂だ。昼も過ぎているので、ランチタイムとする。食事を終えた後、西側にある三角点を確認し、再び頭高山入口に戻った後、北側へと下っていき、白山神社に寄り道。

ここには、かながわの名木 100 選に選ばれた樹齢 600 年と推定されるスギの大木がある。樹高 44m と言われ、確かに他の木々から抜きん出ている高さだ。そんな高木を眺めた後、渋沢駅に向かって住宅街を下っていった。　（永井 記）

＜コース概略＞渋沢(9:55)～(10:19)渋沢中学校入口～(10:39)頭高山分岐点～(10:42)八国見山分岐点～(10:58)八国見山(11:12)～(11:16)車道合流点～(11:27)八国見山分岐点～(11:29)頭高山分岐点～(11:49)雁金神社～(12:11)頭高山休憩所(12:18)～(12:31)頭高山)(13:03)～(13:21)頭高山休憩所～(13:40)白山神社(13:56)～(14:42)渋沢

＜参加者＞　森、高井(紀)、藤川、関口、込田、打矢、渡辺、大字、國清、細川、丸山、稲垣、永井

かながわ山岳誌　H コース

弁当沢ノ頭･蛭ヶ岳･檜洞丸

令和 4 年 12 月 20・21 日

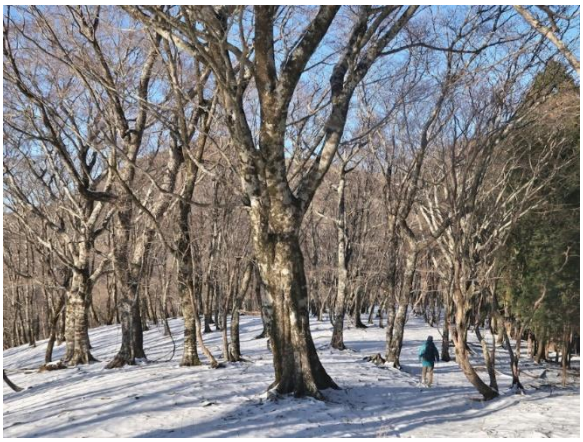
7:25、表丹沢県民の森駐車場を出発する。西山林道終点のミズヒ沢から徐々に登りがきつくなっていく。後沢乗越を過ぎ、さらに急な登りとなる。鍋割山への登りで、一番ハードなゾーンだ。そのゾーンを過ぎると、幾分登りが楽になる。10:33、鍋割山に到着。

鍋割山からは、幸いにも富士山や南アルプスの眺望が得られた。その後、雨山峠方面に下っていくと一面雪だらけの斜面となった。途中から北尾根に進路を変更。柔らかい積雪で滑りやすく、ちょっと下りにくい状況だったため、予想以上に時間を食ってしまった。ようやく尊仏ノ土平手前に下り立ち、西側に進んでいく。そして、熊木沢出合の手前で箒杉沢を渡り、弁当沢ノ頭の尾根の末端に取りついた。

植林帯での高度差 450m を登りきると、斜度が緩くなってきて、地面には雪が再び現れた。弁当沢ノ頭のピークは、殆ど平なので、目視では、はっきりしないが、GPS では、この辺りだと断定できた。だが、特に山頂標識などは見当

たらなかった。

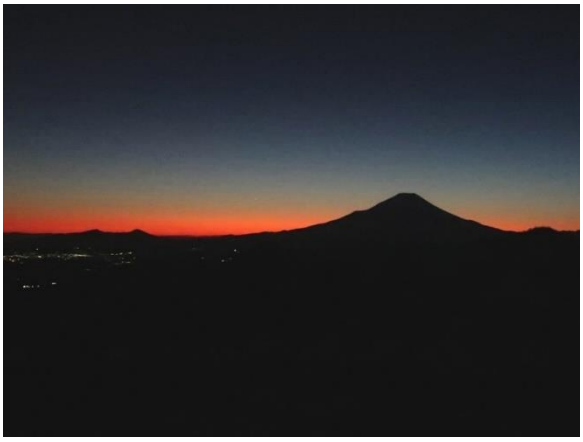
だいぶ予定より遅れているので先を急ぐ。弁当沢ノ頭の尾根筋は、全面的に植林帯というイメージが強かったが、実際は、冬枯れの広葉樹が美しい尾根だった。



弁当沢ノ頭ピークを通過後の尾根

棚沢ノ頭に向かう途中で携帯が使えるようになったので、本日の宿、蛭ヶ岳山荘に連絡し、予定より遅れることを連絡する。

鬼ヶ岩を過ぎ、陽が沈んだ後の西の空が赤い。富士山のシルエットもくっきりと眺められ、一瞬、立ち止まって見入ってしまった。



鬼ヶ岩を通過後、蛭ヶ岳の登りにて

17:36、蛭ヶ岳山荘に到着。夕食の時刻(17:30)に間に合わず、小屋のスタッフの方に謝罪し、他の宿泊登山者の方々(5名)の夕食も遅らせてしまい、到着早々お詫びの挨拶となってしまった。夕食後は、疲れているせいか、少し雑談した後、すぐに寝入ってしまった。

翌日、朝食を終え、7:15 出発。蛭ヶ岳の下りは、急斜面で雪が多く、これまた時間がかかってしまった。また、臼ヶ岳までは近いと蛭ヶ岳頂上では思えたのだが、蛭ヶ岳の下りが終わった後では、とても遠い距離だということに気がつく。

蛭の下りにて熊木沢方面(右が臼ヶ岳)

9:30、臼ヶ岳に到着し小休止。この後、檜洞丸が西側に見えるのだが、蛭ヶ岳から見た時よりも臼ヶ岳と同様、遠くに見えた。神ノ川乗越、1344m 峰、金山谷乗越とアップダウンを繰り返した後、檜洞丸の登りに入る。

12:56、檜洞丸頂上に到着。ここも一面、白銀の世界だった。だいぶ予定より時間が遅れていたので、予定を変更し、ツツジ新道を下ることにした。この下りも雪だらけで慎重に下っていく。西丹沢ビジターセンター17:00 発のバスに間に合わないかと思われたが、ゴーラ沢出合からの水平道でスピードアップし、16:59 に到着。ギリギリ間に合ったと思ったら、バスは、17:05 発だったことを知る。しかし、最初から 17:05 と知っていたら、間に合わなかったかもしれない。そんな檜洞丸からのハラハラドキドキの下りだった。

今回は、雪道歩きで山々の景色も素晴らしく、非常に印象深い山行となった。(永井 記)

＜コース概要＞12/20：表丹沢県民の森駐車場(7:25)～(7:54)二俣(8:00)～(8:26)ミズヒ沢～(9:02)後沢乗越(9:07)～(10:33)鍋割山(11:00)～〈鍋割山北尾根〉～(12:27)尊仏ノ土平手前～(13:25)熊木沢出合～(15:05)弁当沢ノ頭～(16:24)棚沢ノ頭～(17:36)蛭ヶ岳（泊）
12/21：蛭ヶ岳(7:05)～(9:30)臼ヶ岳(9:48)～

(10:29)神ノ川乗越～(10:45)1344m 峰(10:55)～(11:28)金山谷乗越～(12:56)檜洞丸(13:18)～(13:36)石棚山稜分岐点～<ツツジ新道>～(16:13)ゴーラ沢出合～()16:52 ツツジ新道分岐点～(16:59)西丹沢ビジターセンター
＜参加者＞永井泰樹、田島剛

寿岳(三角沢ノ頭)

令和５年１月 28 日（土）

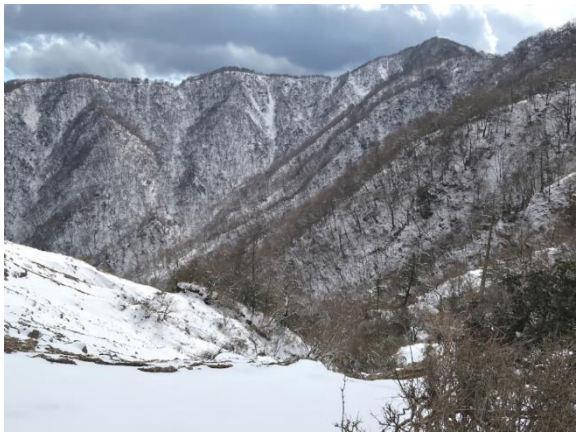
大倉バス停を出発し、まずは、大倉尾根経由で塔ノ岳を目指す。前夜に降った雪で、なんと大倉バス停の先からは、一面の銀世界となっていた。そんな訳で登山道は、最初から雪の上を歩いていくようになる。

南側斜面の大倉尾根コースだが、樹林が多いので、雪道が続く。だが、金冷シを過ぎ、塔ノ岳直下の登りにさしかかるときに本村さんの両足が攣るというアクシデントが発生。幸い自立歩行は、問題なかったが、大事をとって、本村さんはここで引き返すこととした。その後、3 人で塔ノ岳頂上に到着。

塔ノ岳頂上でランチタイムとした後、日高に向かう。塔ノ岳北側斜面でも積雪量は、さほど変わらなかった。日高から右折し、バリルートに入り、寿岳へと向かう。すると、意外にも雪上に登山者と思われる踏跡が残っていた。この踏跡を辿っていくと、寿岳手前の鞍部付近で、単独男性とすれ違う。この方が踏跡のご本人だった。「お気をつけて」と挨拶後、こちらは、寿岳に向かい、無事到着。

寿岳山頂

寿岳頂上には、小さな岩に「寿」の文字が薄く書かれてあった。ここで「寿岳」と書いた紙をセットして記念撮影。



寿岳鞍部付近から眺めた塔ノ岳

帰りは、来た道を引き返す。鞍部手前で塔ノ岳側に寄り道し、塔ノ岳を撮影。普段、見かけない方角からの塔ノ岳を眺めて、思わずニンマリ。その後、標高差 160m の登りを終えて日高に戻ってきた。そのまま休憩も取らず、登山道を進み、塔ノ岳に戻った。ここで、スマホで本村さんからのメッセージを受取り、すでに見晴茶屋に到着しているとのことだった。こちらはまだ塔ノ岳ということで、先に下山して下さいと連絡する。

15:01、塔ノ岳を出発。駒止茶屋あたりで日が暮れる。雪がまだ残っており、凍結している箇所が部分的にあるので、スピードが上がらない。結局、大倉には、19:47 到着となり、大倉尾根の下りに対し、非常に時間がかかった山行となった。(永井 記)

＜コース概略＞大倉(7:20)～(9:30)堀山の家～(10:55)花立～(11:32)塔ノ岳(12:00)～(12:32)日高～(13:17)寿岳(13:27)～(14:08)日高～(14:42)塔ノ岳(15:01)～(15:24)花立～(16:56)堀山の家～(19:47)大倉
＜参加者＞　田島、永井、玉木、本村

大笄・檜洞丸ノ丸・

令和５年２月 23 日（木）

西丹沢ビジターセンターを出発すると、正面に大室山の西側山稜が見えた。(山頂側は雲に隠れて見えず)そこには、できたばかりと思われる真っ白な霧氷が稜線上に現れていた。

用木沢出合を右折し、犬越路へと向かう。犬越路沢沿いに登り始めるとだんだんと急になっていく。左岸のロープのある階段状の登りを終えると、右岸に移動し、ジグザグに登って犬越路に到着。風が強くて、ザックを下すと一気に背中の汗が引いていく。小休止後、檜洞丸に向かって出発。

すぐに右後方に富士山が見えてくるが、残念ながら頭の手前には雲が立ちはだかり、裾野の一部しか見えてなかった。やがて、左右に植生保護柵が現れる。振り返ると大室山が大きい。よく見ると頂上の稜線にも霧氷が付いていたことが分かる。だが、時間が経ち、もう鮮やかな白さは消えていた。

登山道は、アップダウンを繰り返し、徐々に標高を上げていく。クサリ場を登っていくと小笄に到着。ここは、細長いピークで、端に行くと素晴らしい眺望が広がる。（但し、富士山の頭は、相変わらず雲に隠れている）

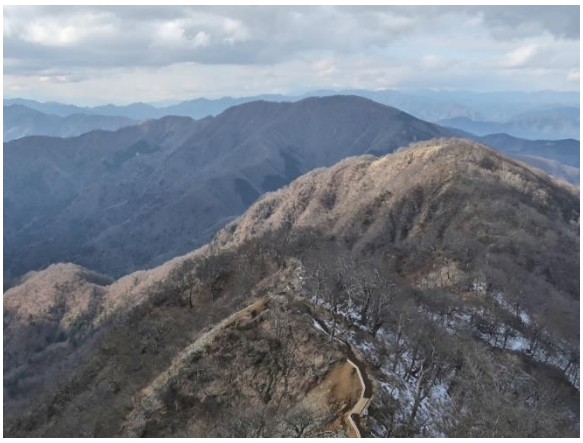
急な下りを終え、登り返し、クサリ場を２か所通過する。その後、クサリのない急登で凍結エリアがあり、チェーンスパイクを装着して通過。凍結エリアを過ぎると、緩やかな登りとなり、振り返ると大室山の姿がよく見えた。

13:11、大笄に到着。山頂標識も道標もなく、左右に植生保護柵だけがある寂しいピークだった。しかし、保護柵の内と外では、ササの密集度と葉の色が違う。やはり、シカによる食害がササを衰退させているのかと思えた光景だった。大笄を下った所にあるベンチで、ランチタイム。

熊笹ノ峰頂上

その後、熊笹ノ峰を登っていく。熊笹ノ峰も大笄と同様、山頂標識も道標もなく、植生保護柵だけがある地味なピークだった。

14:40、檜洞丸頂上に到着。頂上からは、冬枯れのブナ林の奥に塔ノ岳が眺められた。ここで 17:05 発のバスには間に合わないだろうと判断し、ゆっくり下ることにした。



檜洞丸頂上付近から大室山方面の眺望

16:23、つつじ新道を下り、展望台に到着。ここで時間調整と称し、田島さんとベンチで話し込んだ後、出発。だが、この後、ゴーラ沢出合に着いた時、ここまでの下りに時間がかかってしまい、最終 19:00 発のバスに対し、余裕がなくなってきたことが分かった。急いでゴーラ沢出合を出発する。途中で、陽が落ちてしまい、おまけに危険な木橋や桟橋の通過、最後の急な下りがあり、歩行速度が極端に遅くなった。

18:24、つつじ新道入口に出た。ようやくここでホッとする。18:35、西丹沢ビジターセンター到着。19:00 発のバスに乗り込む。このバスは、結局、終点新松田駅まで、乗客は、誰も乗らず、最後まで我々2 人だけだった。（永井記）

＜コース概略＞西丹沢ビジターセンター(8:51)～(9:19)用木沢出合(9:23)～(10:48)犬越路(11:03)～(11:59)小笄(12:02)～(13:11)大笄～(13:42)熊笹ノ峰(13:55)～(14:40)檜洞丸(14:50)～(16:23)展望台(展望園地)(16:41)～(17:36)ゴーラ沢出合(17:41)～(18:35)西丹沢ビジターセンター

＜参加者＞　田島、永井

上ノ丸・ヨモギ平

令和５年３月 21 日（火）

丹沢ホーム手前の登山口にてタクシーを降り、8:10、登山道に入る。モミの木が目立つ樹林帯を進んでいく。やがて、トラバースする登山道が崩壊し、新しいルートが尾根筋に登るように続いていた。その新しいルートを登り詰めていくと、なんと目的地の一つ、下ノ丸の山頂に到着した。（当初は、登山道から外れ、バリルートで下ノ丸に行くつもりだった）

そこから登山道を下っていくと、鞍部にて旧ルートと合流し、長尾尾根へのルートを登っていく。登山道は、上ノ丸ピークを左から巻いているので、上ノ丸のピークが見えてきたところで、右の尾根筋に取りつく。シカ柵沿いに登り、上ノ丸頂上に到着。シカ柵は頂上まで続いており、周囲は植林と自然林に囲まれ、展望は残念ながら塞がれていた。風が極端に冷たくなり、記念撮影した後、即座に下っていく。

上ノ丸頂上

来た道を戻り、丹沢ホーム手前の登山口まで戻ってきた後、少し県道方向に戻る。吊り橋の下でタライゴヤ沢を渡り、ヨモギ尾根に取りつく。

最初は、急な登りが続くが、806m 地点を過ぎると、斜面は緩やかになってくる。やがて北側斜面にて丹沢で最大と思えるブナの大木を見物する。さらに進み、ヨモギ尾根の最高地点(970m)を過ぎ、少し下ったヨモギ平にて小休止。ここからは、三ノ塔や長尾尾根が樹林の奥に見えている。

上空が曇ってきたところで、下山開始。ボスコオートキャンプベース(キャンプ場)の方へ下っていく。キャンプ場に近づいたところではミツマタが満開だった。

その後、ヤビツ峠まで県道を歩くが、周辺にはミツマタがちょうど満開で、ミツマタを撮影しながらの車道歩きとなった。15:19、ヤビツ峠に到着。幸いにも雨は、ヤビツ峠まで降らなかった。　（永井 記）

ミツマタが満開

＜コース概要＞丹沢ホーム手前登山口(8:10)～(8:59)下ノ丸(9:13)～(9:48)上ノ丸(10:04)～(10:36)下ノ丸(10:45)～(11:20)丹沢ホーム手前登山口～(11:25)吊り橋下～＜ヨモギ尾根＞～(13:19)ヨモギ平(13:32)～(14:26)BOSCO ｵｰﾄｷｬﾝﾌﾟﾍﾞｰｽ入口～(14:28)諸戸～(14:43)門戸口橋～(15:19)ヤビツ峠

＜参加者＞永井泰樹、田島剛、森武昭、稲垣哲郎、杉田和美、砂田定夫、葉上徹郎、中島良行、関口由美子

役員会報告

1 月役員会

日時：令和５年１月 19 日（木）：19:00～20:50

場所：かながわ県民センター７０８会議室

出席者：込田支部長、永井事務局長、森、田島、中島

監事：砂田

オンラインでの参加：早川、渡辺、玉木、葉上、出江、田中

委任状による出席：大槻、長島、青

木、落合、柴山、廣岡

連絡事項

・来年度の全国支部懇談会の概要について説明があった。群馬支部主管で、9/23・24にみなかみ町のみなかみ館で実施予定。

（２）山行報告

・12/17に古道プロジェクトとして、本厚木駅＝（バス）＝舟沢BS～蓮久寺～桜山～白山神社～白山展望台・三角点～御門橋～八幡神社～別所温泉入口BS＝（バス）＝本厚木駅を実施。参加者は６名。

・12/20・21に山岳誌プロジェクトＨコースとして、鍋割山～熊木沢出合～弁当沢ノ頭～蛭ヶ岳～檜洞丸を実施。

なお、当初案では、檜洞丸～熊笹ノ頭～大コウゲ～小コウゲ～犬越路林道分岐点～犬越路林道～犬越路～西丹沢VCであったが、時間の関係で変更。参加者は２名。

・1/14に予定していた古道プロジェクトの大山表参道の山行は雨天のため中止。

（３）その他

・11/6に実施した県岳連主催の「かながわ県民登山」の報告書について紹介

［審議事項］

（１）　年間計画

・4/15にかながわ山岳誌のフィナーレ山行を大磯鷹取山～湘南平で実施する。

（２）山行計画

・1/21に山岳誌プロジェクトＬコース渋沢駅～八国見山（やくにみやま）～頭高山入口～頭高山（ずこうやま）～白山神社～名水若竹の泉～渋沢駅を実施予定。

・1/28に山岳誌プロジェクトＨコースとして、秦野駅北口＝(タクシー)＝丹沢ホーム～上ノ丸～新大日～塔ノ岳～日高～寿岳(三角沢ノ頭)～日高～塔ノ岳～大倉BS＝(バス)＝渋沢駅を実施予定。

・2/4に自然観察会として、座間駅～谷戸山公園入口～園内散策（水鳥の池、野鳥観察小屋など）～星谷寺～座間駅を実施予定。

・1/24に古道プロジェクトとして、伊勢原駅北口＝（バス）＝大山ケーブル～男坂～下社～16丁目～25丁目～山頂～雷ノ峰尾根～見晴台～下社～女坂～大山ケーブル駅＝（バス）＝伊勢原駅北口を実施予定。

・2/11に古道プロジェクトとして、秦野駅＝（バス）＝蓑毛～蓑毛越(9:40～表参道16丁目～25丁目～大山山頂～25丁目～16丁目～蓑毛越～阿夫利神社下社～大山寺～大山ケーブルBS＝（バス）＝伊勢原駅北口を実施予定。

・3/11・12に妙高のホテル「ユアーズイン」をベースとしたスキー・スノーシューの集いに関しては、1/12に募集を開始

・5/27・28に妙高のホテル「ユアーズイン」をベースとした山菜取りハイキングに関しては予定通り実施する。森が担当し、３月に入って募集案内することにした。

（３）その他

・城跡ハイキングプロジェクトは、中島・込田・渡辺・砂田で組織することにした。参加募集に関して、会員向けは渡辺、一般向けは中島が担当することになった。

・中島より、城跡ハイキングに関して、県庁及び横浜市の記者クラブ向けの説明資料についての紹介があった。

・城跡ハイキングの第１回山行を3/18に実施予定。コース：横浜地下鉄センター北駅10：10～10：20横浜市歴史博物館10：40～10：50大塚遺跡11：20～11：40茅ケ崎城（昼食）12：40～12：50センター南駅12：58＝（横浜市営地下鉄乗車）＝13：07新横浜駅乗り換え13：21（JR横浜線乗車）13：24＝小机駅13：30～13：45小机城14：45～15：00小机駅

・永井より、令和５年度の支部事業計画について説明があり、承認された。

・永井より、令和５年度支部予算案について説明があり、承認された。

・森より、支部特別補助金について、仕組みや今回申請するに至った経緯と申請内容について説明があり、本部へ申請することが承認された。

・森より、かながわ山岳誌の報告書出版に関して、山と渓谷社から提示された概算見積とそれに対する対応案が提案され、出版に向けて契約することが承認された。なお、資金面については、令和４～６年度に支部予算から各20万円を支出し、支部会員に１冊は無料で配付するが、書籍販売促進と寄付を呼び掛けることにした。

・葉上より、古道プロジェクトの今後の予定について説明があった。
・葉上より、古道プロジェクトの報告書作成の進捗状況について説明があった。夏前の完了を目指している。

2 月役員会

日時:令和 5 年 2 月 16 日(木):19:00～20:30
場所：かながわ県民センター７１０会議室
出席者：込田支部長、永井事務局長、森、田島、中島
オンラインでの参加：早川、落合、渡辺、植木、青木、出江
オンラインで参加の監事：砂田
委任状による出席：大槻、長島、葉上、柴山、玉木、廣岡

［報告事項］
（１）会員の異動
・退会：11101 川朋子
・物故：7739 川井英憲
（２）山行報告
・1/21 に山岳誌プロジェクトＬコースとして、渋沢駅～八国見山（やくにみやま）～頭高山入口～頭高山（ずこうやま）～白山神社～渋沢駅を実施。参加者は１３名。
・1/28 に山岳誌プロジェクトＨコースとして、渋沢駅＝（バス）＝大倉～塔ノ岳～日高～寿岳(三角沢ノ頭)～日高～塔ノ岳～大倉 BS＝(バス)＝渋沢駅を実施。参加者は４名。資料では参加者名が中島となっているが玉木に要訂正。なお、当初予定していた渋沢駅＝（タクシー）＝丹沢ホーム～上ノ丸～塔ヶ岳のコースはタクシーが入らないので変更した。
・2/4 に自然観察会として、座間駅～谷戸山公園入口～園内散策（水鳥の池、野鳥観察小屋など）～星谷寺～座間駅を実施。参加者は１０名。
・1/24 に古道プロジェクトとして、伊勢原駅北口＝（バス）＝大山ケーブル～男坂～下社～16 丁目～25 丁目～山頂～雷ノ峰尾根～見晴台～下社～女坂～大山ケーブル駅＝（バス）＝伊勢原駅北口を実施。参加者は４名。
・2/11 に古道プロジェクトとして実施予定であった大山裏山道の山行はリーダーの都合で中止とした。

［審議事項］
（１）年間計画
・特に追加項目なし。
（２）山行計画
・2/23 に山岳誌プロジェクトＨＬコースとして、新松田駅 7:25＝(バス)＝8:36 西丹沢ビジターセンタ～用木沢出合～犬越路～大コウゲ～熊笹ノ峰～檜洞丸～石棚山稜分岐～ゴーラ沢出合～西丹沢ビジターセンター＝（バス）＝新松田駅を実施予定。
・3/4 に古道プロジェクトとして、厚木 BC＝(バス)＝広沢寺温泉入口～広沢寺温泉駐車場～大釜弁財天～弁天御髪尾根取付（ゲート）～見晴広場～下弁天～中弁天～上弁天～見晴広場 B～広場 A～すり鉢広場(＃27)～大沢分岐～鍵掛～893ｍ峰(＃28)～不動尻分岐～大山(＃29)～25 丁目～16 丁目～下社（＃30）～下社駅＝（ケーブルカー）＝追分駅～ケーブル BS＝（バス）伊勢原駅北口を実施予定。留守本部は込田と渡辺が担当。
・3/11～13 に妙高のホテル「ユアーズイン」をベースとしたスキー・スノーシューの集いに関しては、参加希望へ現時点で 3 名。
・城跡ハイキングの非会員の参加募集をマスコミに依頼したところ、東京新聞が 2/10 に掲載してくれた。その結果、本日の時点で 14 名の申し込みがあった。
・城跡ハイキングの第１回山行を 3/18 に実施する。その詳細についての説明があった。
・4/15 に山岳誌プロジェクトのフィナーレ山行コースとして、二宮駅南口＝（バス）＝生沢 BS～大磯鷹取山～霜降の滝～松岩寺～松岩寺 BS＝（バス）＝平塚駅北口＝（バス）＝湘南平～大磯駅を実施予定。なお、健脚の希望者があれば、霜降の滝～松岩寺～新幹線の高架橋～愛宕神社～湘南平も実施予定。また、湘南平で 13:40 頃から踏査完了を祝して簡単なセレモニーを予定している。
（３）その他
・永井より、非会員を含めた山岳保険未加

入者を対象とした山行ごとの掛け捨てで加入する包括契約保険の詳細について説明があった。いくつかの問題点が指摘されたので、先方に確認することにした。

・永井より、年度末に向けて今年度の支部会計案の説明があった。

・森より、山と渓谷社との「かながわ山岳誌」出版へ向けた編集打ち合わせの状況について説明があった。かながわ山岳誌の印刷費用が 20.6 万円となっているが、18 万＋税 1.8 万＝19.8 万円とし、差額の 8 千円は文房具などの消耗品購入に充てることにした（担当：森）。

3 月役員会

日時：令和 5 年 3 月 16 日（木）：19:00～20:45
場所：かながわ県民センター７１０会議室
出席者：込田支部長、永井事務局長、森、田島、中島、青木、葉上、柴山
オンラインでの参加：落合、渡辺、植木、玉木、出江
オンラインで参加の監事：砂田
委任状による出席：大槻、早川、長島、田中、廣岡

［報告事項］

（１）山行報告

・2/23 に山岳誌プロジェクトＨコースとして、新松田駅＝(バス)＝西丹沢ビジターセンタ～用木沢出合～犬越路～大コウゲ～熊笹ノ峰～檜洞丸～石棚山稜分岐～ゴーラ沢出合～西丹沢ビジターセンター＝（バス）＝新松田駅を実施。参加者は２名。

・3/4 に古道プロジェクトとして、厚木 BC＝(バス)＝広沢寺温泉入口～広沢寺温泉駐車場～大釜弁財天～弁天御髪尾根取付（ゲート）～見晴広場～下弁天～中弁天～上弁天～見晴広場 B～広場 A～すり鉢広場（＃27）～大沢分岐～鍵掛～893m峰（＃28）～不動尻分岐～大山（＃29）～25 丁目～16 丁目～下社（＃30）～下社駅＝（ケーブルカー）＝追分駅～ケーブル BS＝（バス）伊勢原駅北口を実施。参加者は３名。

・3/11～3/13 に妙高ユアーズインをベースとしてスキー・スノーシューの集いを実施した。3/11 は妙高高原駅東側の旧スキー場、3/12 は戸隠神社をハイキング。3/13 は雨天のためホテルで映画鑑賞。参加者は４名。来年度へ向けての課題についても説明があった。

［審議事項］

（１）　年間計画（資料１１－５）

・全国支部懇談会は、群馬支部主管で、9/23・24 にみなかみ町のみなかみ館で実施予定

（２）山行計画

・3/18 に第１回城跡ハイキングとして、横浜地下鉄センター北駅～横浜市歴史博物館～大塚遺跡～茅ケ崎城（昼食）～センター南駅＝（横浜市営地下鉄乗車）＝新横浜駅乗り換え（JR 横浜線乗車）＝小机駅～小机城～小机駅を実施予定。参加申し込みは、会員が 16 名、非会員が 17 名。なお、雨天の場合には 5/13 に変更する。

・3/21 に山岳誌プロジェクトＨコースとして、秦野駅北口＝(タクシー)＝丹沢ホーム～札掛分岐～下ノ丸～上ノ丸～札掛分岐～札掛～ヨモギ平～ボスコキャンプ場～ヤビツ峠＝(バス)＝秦野駅を実施予定。留守本部は込田と渡辺が担当。

・4/8 に古道プロジェクトとして、小田原駅東口 BS＝（バス）＝元箱根港 BS～賽の河原～一の鳥居～旧街道権現坂上～お玉が池～精進が池歴史館・石仏群～芦之湯東光庵（昼食）～湯坂道入口～鷹ノ巣山～浅間山～大平台分岐～湯坂山～湯坂城址～箱根湯本駅を実施予定。留守本場は永井と渡辺が担当。

・4/15 に山岳誌プロジェクトのフィナーレ山行として、二宮駅南口＝（バス）＝生沢 BS～大磯鷹取山～霜降の滝～松岩寺～松岩寺 BS＝（バス）＝平塚駅北口＝（バス）＝湘南平～大磯駅を実施予定。なお、健脚の希望者があれば、霜降の滝～松岩寺～新幹線の高架橋～愛宕神社～湘南平も実施予定。また、湘南平で 13:40 頃から踏査完了を祝して簡単なセレモニーを予定している。

・4/22 に関東ふれあいの道の第１回山行として、三浦海岸駅＝(バス)＝松輪～間口漁港～剱崎灯台～車道に出る～（車道歩き）～白浜毘沙門天～港に出る～（車道歩き）～磯に入る～盗人狩～車道に出る～宮川町 BS を実施予定。

・4/29 に自然観察会として、秦野駅～弘法の清水～今泉湧水池～八坂神社～曽屋水道記念公園～曽屋神社～葛葉緑地（昼食）～-秦野駅

を実施予定。
・5/13 に城跡ハイキングとして、衣笠駅～小矢部城～衣笠城（昼食）～満昌寺（三浦義明の墓）～衣笠城址 BS＝（バス）＝衣笠十字路～衣笠駅＝（JR 横須賀線）＝久里浜駅～怒田城～久里浜駅を実施予定。なお、3/18 の第１回が中止になった場合には順次繰り下げとなる。 5/13 は、茅ヶ崎城･小机城に変更となる。
（３）その他
・永井より、関東ふれあいの道の第１回山行の Web サイトでの案内（非会員向け）について説明があった。
・永井より、本部へ提出する令和４年度の支部事業報告について提案があり、一部修正の上で承認された。
・永井より、本部へ提出する令和４年度の会計報告について提案があり、承認された。支部内の会計報告に関しては月内に監査を受けて 4 月役員会で報告する。
・支部長より、かながわ山岳誌報告書の出版に関する山と渓谷社との契約書について説明があった。
・森より、出版へ向けた編集作業の進捗状況についての説明があった。
・永井より、イベントで徴収する会費などの取り扱いに関するルーチンについての説明があった。本部への送金は、青木さんが管理している支部口座から振り込むことが確認された。
・永井より、包括保険に関する説明資料とパンフレットを入手した旨の説明があった。
・永井より、5/20 の支部総会は、県民センター会議室を 12 時から 17 時まで確保しているので、総会前に 2 時間程度の講演会を予定している。自薦・他薦問わず支部長または事務局長へ候補者を推薦してほしいとの要望があった。

今後の予定

役員会

5 月 18 日（木）19 時～県民センター709
6 月 16 日（木）19 時～県民センター709
7 月 20 日（木）19 時～県民センター709

総会

5 月 20 日（土）13 時～17 時
県民センター301

山行計画

日　時：6 月 3 日（土）
自然観察会：鎌倉広町緑地

日　時：6 月 10 日（土）
関東ふれあいの道（油壺･入江のみち）

支部会員動静

《退会》
退会：11101 川朋子
物故：7739 川井英憲

あとがき

「かながわ山岳誌」が最終山行を迎えました。人気のコースばかりでなく踏跡のない山もあったが、ひとつづつ登っていった継続の力は素晴らしいものです。新企画もスタートし、神奈川支部の第 2 幕が始まったと感じます。会員の減少が続く日本山岳会においてあらたな力として活動を盛り上げていきましょう。(な)

発　行：日本山岳会神奈川支部　支部長：込田伸夫
編集者：田島剛、永井泰樹、長島泰博、葉上徹郎
令和 5 年 5 月 1 日